

すべての児童生徒が過ごしやすい学級づくりのために

ー 学級雰囲気が良好なクラスー

- ・チャイムが鳴る前に、担任も児童生徒も授業の準備ができている。
- ・授業内におけるノートの取り方などのルールが確立されている。
- ・指示が明確である。
- ・教室の整理整頓ができている。
- ・話し合いが活発だが、メリハリがあるため騒がしくない。

ー 学級雰囲気が良好でないクラスー

- ・チャイムが鳴っても授業が始まらない。
- ・ノートの取り方の具体的な指示やルールがない。
- ・指示が次々に追加され、途中で何をやるかがわからなくなる。
- ・机がまっすぐ揃っていない。
- ・誰かの失敗や話し方に対して、他の児童生徒が過剰に反応をする。

良好な学級雰囲気のための2つのポイント

Point 1 学習環境を整える

①教室の環境調整、②指示の明確化を行い、児童生徒が落ち着いて学習に取り組めるように環境を整える。
ルールを定着させるためには、できていない児童生徒ばかりに目を向けるのではなく、できている児童生徒に対して、教師が褒める、認めるなどの適切な評価をすることで、学級全体に波及させる。

【チェックリスト 1～8】

Point 2 他者を尊重する雰囲気づくり

学習環境を整えた上で、児童生徒の様子を確認しつつ**肯定的な声かけをする**など、良好な関係性を構築し、他者を尊重する雰囲気を醸成する。

【チェックリスト 9～13】

学級の雰囲気チェックリスト

筑波大学 柘植雅義・岡部帆南

| 番号 | 場面 | 内容 |
|------|------------------|---|
| ■ 1 | 授業開始前 | 教室の整理整頓（本棚・ロッカー・児童生徒と先生の机など）ができている。 |
| ■ 2 | | 机が真っ直ぐ揃っており、床に荷物やゴミが落ちていない。 |
| ■ 3 | | チャイムがなる前に、児童生徒も先生も授業の準備ができている。 |
| ■ 4 | 学級経営・授業運営 | クラスのルールやマナー、授業内における発表の仕方、ノートの取り方などが確立されている。 |
| ■ 5 | | 授業の進め方や本時の内容が明確である。 |
| ■ 6 | | 授業内における話し合い活動や意見交換が活発である。ただし、メリハリがあるため、騒がしくない。 |
| ■ 7 | | 課題が早く終わった児童生徒や時間を持て余している児童生徒、私語をしている児童生徒に対して、次の指示を出している。 |
| ■ 8 | | 必要に応じて、板書に振り仮名を付けたり、ページ番号を書くなどの工夫をしている。 |
| ■ 9 | やりの児童生徒と先生とのやりとり | 児童生徒が自分の意見や感想をノートに書いているタイミングで、先生自身の仕事や作業を行わず、児童生徒の表情や姿勢を確認している。 |
| ■ 10 | | 「いいね!」「そうそう!」「OK!」などの肯定的な言葉掛けをしている。 |
| ■ 11 | | 児童生徒と担任の先生の授業内におけるやり取りが多く、テンポが良い。 |
| ■ 12 | やりの児童生徒と先生のやりとり | 物を落としてしまったり、作業についていけなかったりする友人のことを気に掛け、すばやく行動に移すことができる児童生徒が多い。 |
| ■ 13 | | 誰かのふざけや失敗に対して、過剰に反応する児童生徒が少ない。 |

雰囲気づくり

×

セサミストリート・カリキュラム

=

多様性を認める学級づくり

セサミストリート・カリキュラムは、「キャリアとお金」「価値や多様性の理解」「インクルージョンの実現」の3つの軸を中心に構成され、教科における学力の向上だけでなく、社会性や情緒的行動、生涯学習における基礎的な資質の育成を目標としている。各学年12のプログラムから学級や学校の実態・ニーズに合わせ、必要なプログラムを選択することができる。



セサミストリート・カリキュラムの4ヶ条

- 1 間違いも正解もない。
- 2 思ったこと、考えたことは全て発言する。
- 3 お互いを尊重し、受け入れ合う。
- 4 途中で考えが変わってもよい。

セサミ×特別支援

単元名：立場の理解（4学年）

課題：相手の立場にたった関わり方を考えよう。

〈展開〉

- ・街にはどんな人がいるのかを考える。
- ・特別支援学級について知る。
- ・見た目だけでは「困っていること」がわからない人がいることを知るとともに、接し方を考える。
 - ・考えたことをグループ、クラスで共有する。



セサミ×国際理解

単元名：文化の違い（4学年）

課題：いろいろな文化や価値観を知り、尊重の仕方を考えよう。

〈展開〉

- ・自分が出合った文化や価値観の違いをワークシートに書く。
- ・ゲストティーチャーから他国と日本の生活様式や風習の違いなどについて紹介してもらう。
- ・自分が出合った文化や価値観の違いをクラスで共有する。
- ・自分と違う文化や価値観と出合ったときにどうするかをグループ、クラスで話し合う。



セサミストリート・カリキュラムは、児童生徒一人一人の違いを認め合い、それぞれの持ち味を発揮できる学級＝多様性を認める学級をつくるための手立ての一つとなります。